

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名

担当部課室 環境文化部 環境管理課

重点戦略	III 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム
施策名	【重点】水、大気、土壌などの保全対策の推進

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	微小粒子状物質 (PM2.5) の環境基準達成率	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	67.0	73.0	79.0	85.0
現況値	55.7% (2017~2019年度の加重平均)	実績値	83.8			
目標値	85.0%	達成率	125.1%			
備考		達成度	5			

3 関連する事業名

- ・ 児島湖の水質改善の促進
- ・ 晴れの国ブルースカイ事業

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

公共用水域の環境基準達成率は、河川 (BOD) で96.8%、海域 (COD) で40%であった。児島湖 (COD) については、近年は横ばい傾向で推移しており、依然として環境基準の達成には至らなかった。
 環境大気環境基準達成率 (2021年度単年) は、光化学オキシダント以外の全ての物質で100%であった。このうち、微小粒子状物質については、初めて100%となり、光化学オキシダントについては、依然として0%であった。

6 今後の施策推進に向けての課題

工場・事業場に対しては、水質汚濁防止法や大気汚染防止法などの関係法令に基づく立入検査を実施するなどして、排出基準等の遵守徹底を図る。
 児島湖対策については、下水道整備などの生活排水対策や普及啓発事業に加えて、L字型肥料への転換促進による農地からの汚濁負荷量の削減、生物による水質浄化、環境用水利権の取得に向けた協議等を進める。
 微小粒子状物質対策については、工場・事業場の固定発生源対策等を講じるほか、微小粒子状物質の原因となる稲わらの野焼きを低減させるための取組を推進する。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名

担当部課室 農林水産部 治山課

重点戦略	III 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム
施策名	【重点】花粉の飛散の低減に向けた取組の加速

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替えの割合	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	97.0	98.0	99.0	100.0
現況値	96.6% (2019年度)	実績値	99.6			
目標値	100.0%	達成率	102.7%			
備考		達成度	4			

指標名	少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替えの面積	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	177	358	539	720
現況値	140ha/年 (2019年度)	実績値	131			
目標値	720ha (4年間累計)	達成率	74%			
備考	目標値は2021~2024年度の累計	達成度	2			

3 関連する事業名

・少花粉スギ・ヒノキ普及加速化事業

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

少花粉スギ・ヒノキ普及加速化事業（県単独事業）等による助成により、少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替えが促進され、2021年度の植替え率は99.6%と目標の97%を上回る成果を上げている。
一方、植替え面積は131haと目標の74%にとどまった。

6 今後の施策推進に向けての課題

引き続き少花粉スギ・ヒノキ苗木の安定供給による植替えを推進するとともに、伐採及びその後の再造林（植替え）に省力化・低コスト化に関する普及啓発等により再造林（植替え）面積の増加に努める。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 新エネルギー・温暖化対策室
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム		
施策名	【重点】温室効果ガスの削減に向けた取組等の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	電気自動車等の普及台数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	803	1,403	2,103	2,803
現況値	5,797台(2019年度)	実績値	1,405			
目標値	8,600台	達成率	175%			
備考	2021年度:7,202台(達成率は現況値からの増加数で算出)	達成度	5			

3 関連する事業名

- ・電気自動車等普及促進事業
- ・事業者の省エネ対策促進事業
- ・協働による環境学習推進事業

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

県民・事業者それぞれの主体的な取組を一層促進するため、市町村や事業者からの相談に対応し、適切なアドバイスを行った。また、業務用車両へのEV等の導入経費や充電設備の設置経費の補助を行ったほか、広く県民を対象にEV等の魅力を多角的にPRする試乗モニター事業を実施し、EV等の普及促進を図った。さらに、広く県民を対象とした環境学習出前講座を実施するなど、様々な分野で温室効果ガス削減に向けた一層の取組を推進した。

6 今後の施策推進に向けての課題

EV等の普及促進を図るため、引き続き、EV等を安心して利用できる環境の整備に努める必要がある。また、事業者ごとに省エネに対する意識には温度差があるため、周知啓発により全体の省エネ意識レベルを高めていく必要がある。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	土木部 都市計画課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム		
施策名	【重点】生活排水対策の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	汚水処理人口普及率	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	89.7	90.6	91.3	92.1
現況値	87.3% (2019年度)	実績値	88.2			
目標値	92.1%	達成率	98.3%			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

- ・ 児島湖流域下水道事業
- ・ 浄化槽設置促進事業
- ・ 農業集落排水事業

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

指標の目標は達成できなかったが、クリーンライフ100構想に基づき、汚水処理施設の普及率向上が図られている。

6 今後の施策推進に向けての課題

将来人口の減少等社会情勢の変化を踏まえ、各施設の統廃合や分担エリアの見直しなど適宜対応する。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 循環型社会推進課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム		
施策名	【推進】循環型社会形成の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	一般廃棄物の排出抑制・資源化率	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	96.4	96.6	96.8	97.0
現況値	96.3% (2018年度)	実績値	96.4			
目標値	97.0%	達成率	100%			
備考		達成度	4			

指標名	産業廃棄物の排出抑制・資源化率	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	95.7	95.8	95.9	96.0
現況値	95.6% (2018年度)	実績値	95.8			
目標値	96.0%	達成率	100.1%			
備考		達成度	4			

3 関連する事業名

- ・食品ロス削減促進事業
- ・プラスチック3R推進事業

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

食品関連事業者とフードバンクをつなぐコーディネート事業の実施、フードバンク活動等について理解と関心を深めるためのシンポジウム等の開催、食品ロス削減月間に合わせた県民向けキャンペーンの実施、大学生による小学生向け出前授業の実施などにより、食品ロス削減意識の醸成を図っている。 また、県民及び事業者それぞれに対し、プラスチック3Rの必要性や廃プラスチックの排出抑制事例等を紹介するセミナーを開催するとともに、プラスチック3Rを宣言し具体的な取組を実施する事業所を登録する制度を実施している（登録事業所数：1,112事業所（2022年3月末時点））。

6 今後の施策推進に向けての課題

食品を提供したい食品関連事業者と提供を受けたいフードバンクをフードシェアリングサービス（アプリ）等を活用しタイムリーにつなぐことで、事業系食品ロスの削減を推進する必要がある。 また、プラスチック3Rの取組について、海洋プラスチックごみ問題の観点から、海ごみ対策事業と連携しながら効果的に啓発等に取り組む必要がある。
--

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 循環型社会推進課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム		
施策名	【推進】きれいな生活環境づくり等の促進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	晴れの国クリーンアップおかやま登録団体数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	22	32	42	52
現況値	28団体(2019年度)	実績値	51			
目標値	80団体	達成率	231.8%			
備考	2021年度:79団体(達成率は現況値からの増加数で算出)	達成度	5			

3 関連する事業名

- ・きれいな生活環境づくり促進事業
- ・産業廃棄物監視強化対策事業

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

郷土岡山がきれいで美しい地域として誇れるよう、地域における清掃美化活動を活性化するため、環境保全団体等が行う清掃活動や花いっぱい運動等の環境美化運動に対する支援を行うほか、ごみ拾い活動を見える化するウェブページの活用を促進している。

また、ごみの不法投棄防止のため、産業廃棄物監視指導員による巡回監視や民間警備会社に委託しての休日・夜間等のパトロールの実施など、監視体制を強化して早期発見・早期対応を図っている。

6 今後の施策推進に向けての課題

環境保全団体等と連携して地域における清掃活動の活性化や意識啓発等を促進するとともに、県民一人ひとりに対し、ポイ捨て等を行わない等の意識の醸成を図っていく必要がある。

また、引き続き、不法投棄防止のための監視を徹底し、早期発見・早期対応に取り組む必要がある。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 循環型社会推進課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム		
施策名	【推進】海ごみ対策の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	海ごみ関係の啓発事業を実施している市町村数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	4	8	12	15
現況値	12市町村 (2019年度)	実績値	13			
目標値	27市町村	達成率	325%			
備考	2021年度: 25市町村 (達成率は現況値からの増加数で算出)	達成度	5			

3 関連する事業名

- ・おかやまの美しい海、海ごみクリーンアップ事業
- ・プラスチック3R推進事業

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

<p>三大河川の流域市町村と連携した啓発リレー（県内9箇所9市町）の実施、ステップアップとして、三大河川流域ごとに展示及び講演会の開催、地区町内会、高校生、企業、漁業者等による海ごみ対策の取組事例の報告及び基調講演等を行う海ごみフォーラムの開催など、普及啓発事業を実施するとともに、市町村が行う海ごみの回収、処理及び発生抑制に係る取組を支援している。</p> <p>また、海ごみ対策連絡調整会議において、河川等における効率的なごみの回収・処理体制づくりについて、検討を行うとともに、瀬戸内4県と日本財団との連携プロジェクトである「瀬戸内オーシャンズX」においても、多様な主体と連携し、海ごみ対策に取り組んでいる。</p>
--

6 今後の施策推進に向けての課題

<p>海ごみの発生抑制については、海に流入する前に河川等でごみを回収することが有効であることから、町内会や学校などによる地域の実情に応じた、自発的かつ継続的な回収活動が実施されるよう、体制を整備する必要がある。</p> <p>引き続き、市町村をはじめ、経済団体、地元町内会、学校等とも連携し、県民一丸となって海ごみ対策を推進する。</p>

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 新エネルギー・温暖化対策室
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム		
施策名	【推進】 地域ぐるみで進めるスマートコミュニティの推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	県内で新エネルギーを核とした地域づくりに取り組む地域数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	4	6	8	10
現況値	9地域(2019年度)	実績値	0			
目標値	19地域	達成率	0%			
備考	2021年度: 9地域(達成率は現況値からの増加数で算出)	達成度	1			

3 関連する事業名

- ・スマートコミュニティ形成支援事業
- ・おかやま新エネルギー導入・活用支援事業

4 施策達成レベル

1.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

スマートコミュニティ形成支援事業については、新たな事業実施エリアの採択には至らなかったが、各市町村に対し、地域の特性や資源を有効に活用した新エネルギーの導入等の取組を対象とした補助があることを広報した。おかやま新エネルギー導入・活用支援事業については、市町村やNPO等を対象に、新エネルギーを核とした地域づくりの取組を支援するため、研修会や先進地視察を実施した。

6 今後の施策推進に向けての課題

さらに地域における取組が進むよう、継続して市町村を支援するとともに、新たな地域での取組を推進していく必要がある。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 自然環境課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム		
施策名	【推進】自然や優れた景観を保全し活用する取組の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	身近な自然体験プログラムの参加者数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	28,500	29,000	29,500	30,000
現況値	28,636人/年(2016~2019年度の平均)	実績値	26,840			
目標値	30,000人/年	達成率	94.2%			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

- ・みどりふれあい事業
- ・自然保護センターの運営管理

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

2020(令和2)年度より新型コロナウイルス感染症の影響により、各プログラムの参加者数が大幅に減少していたが、2021(令和3)年度からはやや回復傾向にある。岡山県自然保護センターでは、開所30周年記念事業や、SNSでの情報発信、利用者のニーズ・ターゲットを意識したPRや行事を積極的に実施したことにより、5年連続で入場者数3万人を達成した。

6 今後の施策推進に向けての課題

県民が自然への理解を深め、自然保護についての意識を高めるためには、実際に自然にふれあい親しめる機会を増やす取組が必要である。その拠点である自然保護センターの利用者数は増加傾向であるが、新型コロナウイルス感染症による影響も踏まえつつ、感染防止対策にも努めながら、利用者の増加を図るための取組を強化していく必要がある。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室 農林水産部 林政課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造	
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム	
施策名	【推進】快適な森林環境の創出と県民参加による森づくりの推進	

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	森づくり活動への参加企業数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	1	1	2	2
現況値	26社(2019年度)	実績値	2			
目標値	28社	達成率	200%			
備考	2021年度:28社(達成率は現況値からの増加数で算出)	達成度	5			

3 関連する事業名

- ・快適森林環境創出事業
- ・企業との協働の森づくり事業

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

企業のニーズを把握し、対象森林が所在する市町村とのマッチングを図ることにより、企業と市町村との間で、森林保全に係る利用協定を締結することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

企業がSDGsに取り組む一環として、森林保全活動に関心を有するケースが増えており、その多くがいわゆる植樹活動を要望しているが、植樹可能な活動対象森林に限られており、マッチングに苦慮するケースが多い。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	農林水産部 農産課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム		
施策名	【推進】環境保全型農林水産業の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	化学肥料・農薬の低減に取り組む面積	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	665	670	675	680
現況値	655ha (2019年度)	実績値	619			
目標値	680ha	達成率	93.1%			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

- ・おかやま e 農産物生産拡大事業
- ・環境保全型畜産確立対策推進事業

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

化学肥料、農薬を低減する環境保全型農林水産業を推進するため、おかやま e 農産物生産拡大事業等を活用した取組を進めた結果、おかやま有機無農薬農産物の取組面積が拡大するなど、一定の成果が得られた。
また、たい肥販売農家戸数を104戸維持し、良質たい肥の利活用による資源循環型農業の推進に寄与した。

6 今後の施策推進に向けての課題

引き続き、化学肥料、農薬の低減技術の普及定着を図るとともに、畜産経営に起因する悪臭等問題の状況把握等やたい肥販売農家戸数の維持に努め、環境負荷の低減に配慮した農業を推進する。
なお、国のみどりの食料システム戦略の推進動向を注視しながら、県の対応を検討していく必要がある。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	土木部 建築指導課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	快適な環境保全プログラム		
施策名	【推進】空き家の適正管理、利活用の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	空家等対策計画策定済市町村数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	4	6	8	10
現況値	17市町村 (2019年度)	実績値	7			
目標値	27市町村	達成率	175%			
備考	2021年度: 24市町村 (達成率は現況値からの増加数で算出)	達成度	5			

3 関連する事業名

- ・おかやま空き家対策推進事業

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

空家等対策計画の策定数が飛躍的に増えたことで、市町村に空家対策の具体的な目標ができ、各市町村が空家施策に取り組みやすくなった。
 空き家の除却については、空家等対策計画の策定により空家除却対策に係る国費の活用要件を満たす市町村が増え、空き家の除却件数が年々増加傾向にある中、市町村の費用負担を抑えながら施策推進を図ることができた。
 また、空き家の利活用については、フォーラムの開催や活動している地域への働きかけの継続等により、モデル地区以外の地域においても、新たな空き家対策の動きが見られるようになってきた。加えて、市町村が実施する空き家相談会等へ延べ8名の専門家を派遣した。

6 今後の施策推進に向けての課題

引き続き全市町村への空家等対策計画の策定を促し、各市町村の総合的な空家施策の推進を図る必要がある。
 空き家の除却については、市町村に国費の活用を促すことで除却補助制度の効率化を図り、保安上危険となるおそれのある空き家等の除却を促進する。
 空き家の利活用については、市町村に対し事業の周知を図るとともに、積極的な活用を促すことにより、地域及び市町村の空き家利活用に向けた体制づくり等を支援する。